

# 第1回恩納村オーバーツーリズム抑制対策協議会 振り返り

## 第1回協議会（議題）

- 事業概要について
- 過年度実証事業について
- 真栄田岬周辺地域における現状について

## 第1回協議会（主なご意見）

第1回協議会での、過年度実証事業及び調査内容等に関するご指摘、ご意見、ご質問摘等

### 1. 真栄田岬周辺活性化施設について

- ・ 真栄田岬周辺活性化施設の利用者数は、R4の30万人台→R5は42万人に増加
- ・ 繁忙期は5月GWと6月末～9月末だが、曜日に関係なく恒常的に混雑している状態
- ・ 駐車場待機渋滞やレンタカー増加等により、集落内での事故増加も懸念されている
- ・ 違法駐車等は減少したが、生活道路の混雑などは減っていない



集落全体の交通量増加も解決する必要がある

### 2. 海域の利用状況について

- ・ 施設の利用状況が増加しているのと比例し、海域の混雑状況も深刻化している
- ・ 洞窟前の順番待ち、洞窟内の混雑、陸からのエントリーの際の階段下の混雑、階段の混雑



集落、施設、駐車場、海域など、すべてが混雑した状況にあり、事故や満足度低下の要因となっている

### 3. 周辺への影響

- ・ 裏真栄田の利用が増えておりサンゴが全滅するのではないかと心配している
- ジャネー浜などはCM撮影や真栄田岬が利用できない場合に利用されているケースが多い
- リーフ内のためサンゴは非常に多い
- 駐車場の利用制限をただけでは、無店舗事業者がほかに流れるだけで根本的な解決にはならない



真栄田岬だけに限らず、周辺エリアやほかの海域への影響も発生している

## 第1回協議会（主なご意見）

第1回協議会での、過年度実証事業及び調査内容等に関するご指摘、ご意見、ご質問等

### 4. マリンレジャー事業者の実態について

- ・水上安全条例にもとづく公安委員会に対する届出が必要
- ・事業者は3,700業者（重複あり）1,100～1,400業者といわれる
- ・各管轄警察署に届出（石垣、宮古、那覇、石川の順番）
- ・多くがパパママショップまたは一人親方などの小規模又は個人事業主
- ・その多くが無店舗、現地集合・現地解散型、県内各地で自由にガイド行為が可能



水上安全条例では、現在の問題を根本的に解決することは難しい  
※現地集合型の営業等

### 5. 真栄田岬への事業者集中について

- ・正会員47社、賛助会員（村外）13社だが、事業者の数は全く把握できていない
- ・オーバーツーリズム（環境許容量の超過）は数十年前からの課題である
- ・ボートエントリーはある程度数の把握はできるが、陸域からの利用は把握できていない
- ・一般利用者の方の数も把握できていない
- ・業者から一般の方への高圧的な態度などが散見されている



事業者の数すら把握が難しく、全体の統制ができない  
事業利用と一般利用の問題も発生している

### 6. 安全性について

- ・事業者の増加、一般利用者らの増加に対し、なんらかの規制が必要だと考える
- ・大事なものは安心、安全な海域利用に向けたルール作り



許容量を超えた状態の是正に向けた規制等が必要

### 7. 日雇いガイドの問題について

- ・日雇いガイド（フリーランスのガイド：無届）が存在している
- ↳ 事故やトラブル起こした場合の責任の所在が不明瞭→質の低下が懸念されている
- ・適正に事業を行っている事業者や観光客のためのルール作りが必要



事業者の質の向上が課題  
適正な事業者や観光客を守るためのルール作りが必要

## 第1回協議会（主なご意見）

第1回協議会での、過年度実証事業及び調査内容等に関するご指摘、ご意見、ご質問摘等

### 8. 前兼久漁港の観光利用について

- ・ 観光関連施設整備事業を行っている
  - └ マリンレジャー専用施設をつくり、そこに集約することで問題解決を図ることがねらい
    - ※ 無断駐車の問題解決に向けて駐車場を整備
    - ※ 漁港内の無断駐車は減少
    - ※ 前兼久漁港利用の観光客9割が真栄田岬の客であり、規制等をする場合船舶関係者の反発などが懸念される



規制等を行う際に漁業者等との調整も必要

### 9. 今後に向けて

- ・ 他地域の先進事例などを参考に検討する必要がある
  - └ 例) ハワイ：ハナウマベイなど
- ・ 問題のレベル分けなどの整理が必要
- ・ 今後の解決策の検討に向けて定量での目標数値の設定なども必要



先進事例をふまえた取組  
問題の整理  
定量的な判断指標など